

たてはく



不易と流行

—伝統を忘れず、変化を恐れず—

館長 岡田 知己

激動の令和6年が幕を閉じ、令和7年が始まりました。昨年は元日に能登地方を震源としたマグニチュード7.6の大地震が発生し、富山県内でも観測史上最大の震度5強の揺れで住宅や道路が損壊し、断水、地盤の液状化など甚大な被害に見舞われました。博物館の施設設備は軽微な被害ですみましたが、あらためまして、犠牲になられた方に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆さんに心よりお見舞い申し上げます。

さて、激動の令和6年を振り返ってみると、立山博物館にとっても激動の1年といえる大きな出来事が二つありました。一つは、一昨年に富山、石川、静岡の三県知事により結ばれた日本三霊山連携協定における連携事業として、「立山・白山・富士山を巡る一立山衆徒と三禅定一」と題した特別企画展を開催したことです。時間のなかでの準備となり、担当学芸員も大変でしたが、連携協定のおかげで、普段は石川県及び静岡県でしか見ることのできない貴重な資料を展示することができ、久しぶりに約5000人の来館者で賑わいました。今後の三霊山研究のさらなる進展が期待されます。

もう一つは、2年目を迎えた文化観光拠点計画です。令和5年度末に新webサイトの開設、デジタル立山曼荼羅の設置、動画コンテンツの制作と配信などを実施しました。いずれも来館者から好評ですが、令和6年度はさらに、展示館2階の展示解説刷新業務や室堂周辺施設でのサテライト展示、英語版webサイトの制作などに取り組んでいます。特に展示館では2階に新たなデジタルサイネージが導入されることになりました。3月末には皆さんにお見せできると思います。どうぞご期待ください。

いま世の中は、グローバル化や情報化が急速に進展し、多様な主体が猛スピードで相互に影響し合い、一つの出来事が広範囲かつ複雑に伝播しているため、先を見通すことがますます難しくなっています。このように予測困難な時代ではありますが、博物館として必要な本質を決して忘れることなく(不易)、時代の変化に応じた新しい手法を取り入れること(流行)で、さらなる魅力アップにつなげていきたいと考えております。

立山博物館を本年もよろしくお願ひします。



白山



立山



富士山

目次

不易と流行 —伝統を忘れず、変化を恐れず—	1
R6年度後期特別企画展「説話にみる異界と立山」を終えて	2
後期特別企画展連携企画 桂米福落語会を開催して	2
令和6年度立山博物館友の会バスツアー	
今年度は、初の1泊2日！富士山麓を巡る旅へ	2
学芸課発 立博雑学 第15回 R・W・アトキンソンの立山登山	3
盛りだくさん！出前展示	
展示・三択クイズ・生徒の絵解き、イラストコンクールも	3
まんだらナイトウォーク・もみじを愛でる会を終えて	4
国重要文化財・旧嶋家住宅 耐震補強・保存修理工事を実施中	4
博学連携 中堅教諭資質向上研修を実施	4
二ホンカモシカ「シュート」に初孫誕生！	4
編集後記	4





R6年度 後期特別企画展

「説話にみる異界と立山」を終えて

この企画展の趣旨は、立山にまつわる「異界」観の変化を、古代から近世にかけてそれぞれの時代に成立した説話を通して検証するというものでした。

最初に「本ばかり展示ケース内に並べても、面白くない」という問題にぶつかりました。そこで思いついたのが、「似幽霊」の一場面を立体物で展示することでした。幸いなことに展示する女の幽霊役と立山にきた男役の2体の人形は以前から当館にあったので、それを活用することにしました。この展示は、江戸時代の見世物小屋風にしたと思い、背景に当時の口上を書いた紙を貼りました（この展示は撮影スポットとなっていました）。

また今回の展示では「富山県初公開資料」が多かったのも特徴です。特に「亡女の片袖」（大念佛寺蔵）をはじめ、「能楽圖繪」（金沢能楽美術館蔵）、『本朝櫻陰比事』（関西大学図書館蔵）、『善悪因果集』（当館蔵）など「片袖幽霊譚」関連の資料を中心に、時代を反映した貴重な資料の数々を展示することが出来ました。

今回は会期が27日間と短く、観覧者数の伸びが心配でしたが、関連イベントの落語会や、6回実施した解説会は概ね天候にも恵まれ、大勢のお客様にご来場いただきました。解説会でお客様に面白かったと言っていたのが、何よりうれしいことでした。

最後に、ご協力いただきました関係各位と資料をご出品いただきました所蔵者の皆様に、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。（観覧者数：1,369人）（奥澤真一郎）



後期特別企画展 連携企画

桂米福落語会を開催して

10月12日（土）に、富山出身の落語家桂米福師匠をお招きして、後期企画展でも紹介された「亡女の片袖」に関連した噺、怪談「江島屋騒動」を演じていただきました。

1席目の「替り目」、2席目の「紀州」の笑い話から一転、「江島屋騒動」がはじまると会場の空気がびりりと変わりました。日本の話芸の奥深さを感じさせられる会となりました。（毛利成宏）



令和6年度 立山博物館友の会バスツアー

今年度は、初の1泊2日！ 富士山麓を巡る旅へ

富山県、石川県、静岡県が協力する「日本三霊山連携事業」の一環として、立山博物館友の会では初めて、11月12日（火）、13日（水）の1泊2日でのバスツアーを実施しました。

昨年のツアーの時から「ぜひ行きましょう！」とお声がけしていたためか、長距離の移動であったにもかかわらず、見角会長をはじめ、玉木副会長、友の会会員、ボランティア会員など、総勢30名での旅となりました。

1日目は、午後2時半ごろに静岡県富士宮市の富士山本宮浅間大社に到着し、揃っての正式参拝。大社の職員の方に、国指定重要文化財の本殿や国指定特別天然記念物の湧玉池などをご案内いただき、夏の特別企画展で展示した「富士参詣曼荼羅」に描かれたままの境内を散策することができました。続いて、静岡県富士山世界遺産センターへ。今年度の文化講演会の講師を引き受けてくださった大高康正先生が特別に館内を案内してくださり、ツアー参加者も興味津々の様子でした。

2日目は、最初に滝つぼの虹と青空がマッチしていた白糸の滝を訪れ、朝霧高原と富士山を車窓から眺めながら、山梨県富士吉田市のふじさんミュージアム（富士吉田市歴史民俗博

物館）へと向かいました。令和5年4月にオープンした「ふじさんVRシアター」を体験すると、高精細な映像によって本当に富士山へ登山した気分になりました。次に、世界文化遺産構成資産の一つでもある忍野八海の「湧池」や「鏡池」などを散策し、午後からは河口湖も散策しました。残念ながら山梨県では富士山の姿を拝むことができず、「また来てほしいのね～」と言いながら帰路につきました。

初めての遠出のツアーとなりましたが、日本三霊山の一山である「富士山」の信仰や歴史について現地ですぐに学ぶことができ、「日本三霊山連携事業」としても意義のあるツアーとなりました。来年もまた、楽しく学べるツアーにしたいと思います。（細木ひとみ）

（細木ひとみ）





学芸課発

立博雑学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

第15回 R・W・アトキンソンの立山登山

令和6年7月某日、伏木港に寄港した豪華クルーズ船から富山の地に降り立った200人以上の外国人が突如来館し、筆者はグーグル翻訳を片手に対応しましたが惨敗。インバウンドへの対応について考えさせられる1日となりました。今回の立博雑学では、明治初期に立山を訪れた英国人アトキンソンの見た立山について紹介します。

ロバート・ウィリアム・アトキンソンは、1850年にイギリスのニューキャッスルで生まれました。英国化学学校および英国鉱山学校で学び、明治7年(1874)に日本のお雇い教師(化学)として東京開成学校に赴任します。お雇い外国人の多くは未知の国日本を旅し、植物や鉱物の採集、各地域の歴史文化に触れることを楽しみにしていました。アトキンソンも例にもれず、明治12年(1879)の夏に八ヶ岳・白山・立山を登ることを目的にディクソンと中沢岩太の3名で旅行に出かけています。その紀行文が「YATSU-GA-TAKE, HAKU-SAN, AND TATE-YAMA.」(写真1、写真2)です。富山での行程を見てみましょう。

【8月7日】神通川の舟橋を渡り、平井屋旅館に宿泊

【8月8日】常願寺川沿いにさかのぼり、上滝から原村へ

【8月9日】籠の渡しで川(真川と湯川の合流地点付近か)を渡り、立山温泉へ

【8月10日】松尾峠を通り鏡石を経て室堂、地獄谷へ

【8月11日】雄山山頂へ向かう

宿泊した室堂の隙間風に不満をもらしながらも、雄山の頂上が近づくとつれアトキンソンの気分は高揚していきます。室堂から休憩なしに1時間ほど登り続け、ついに頂上に到達しました。頂上での眺めを、以下のように記しています。

白山からの眺めも素晴らしかったが、立山の頂上からの眺めはそれをはるかにしのぐものだった。朝の好天に恵まれ、あらゆる地点を簡単に見分けることができた。この立山とは反対側の海に近いところにある美しい円錐形の富士山に至るまで、次から次へと連なる山波のうねり、そのどの一つをも極めてはっきりとした姿で目にすることができたのである¹⁾。

巡礼の様子を見たり、標高を測ったり(雄山を2,819mと測量)、頂上で2時間ほど過ごしたアトキンソン一行は黒部川を渡り、針ノ木峠を越して信州の町に出、その後帰京。約1ヵ月の大旅行を終えました。行程を記録し、ゆく先々で標高を測り、沢山の植物を採集しました。アトキンソンの登山は、探検登山・調査登山とよばれる一面があり、日本の近代登山のさきがけをなしたひとりであったといわれています²⁾。

アトキンソンの登山から約1世紀半、現代の立山を訪れている外国人は何を見て、どう感じているのでしょうか。(河野史明)

1) R・W・アトキンソン著、渡辺美時雄訳「明治12年、お雇い外国人の『八ヶ岳・白山・立山』紀行」(『山と溪谷』562号所収、山と溪谷社、1983年)、p250

2) 安川茂雄著『近代日本登山史』、あかね書房、1969年

写真1、写真2の出版

『The transactions of the Asiatic Society of Japan』8, Asiatic Society of Japan, 1964年9月刊(国立国会図書館デジタルコレクションより転載)

44 ATKINSON: YATSU-GA-TAKE, HAKU-SAN, AND TATE-YAMA.
any of the others, and serves the mariner as a beacon. The ascent, not including stoppages, took us exactly one hour; whereas from the Murodō to the summit of Haku-san we were not more than 25 minutes, over a much easier road. Magnificent as the view from Haku-san was, it was far surpassed by that obtained from the summit of this mountain, and we were extremely fortunate in having a morning so clear that every point could be distinguished with the greatest ease—mountain after mountain rolling away in the distance until they ended in the beautifully formed cone of Fuji-san, on the opposite coast of Japan.

写真1

YATSU-GA-TAKE, HAKU-SAN, AND TATE-YAMA.
NOTES OF A SUMMER TRIP.
By R. W. ATKINSON, B. Sc. (Lond.)
[Lond. October 14, 1879.]

写真2

盛りだくさん! 出前展示

展示・三択クイズ・生徒の絵解き、イラストコンクールも

今年は、雄峰高校の学園祭[11月2日(土)]にお伺いしました。

教室をお借りして、八大地獄パネル、立山曼荼羅レプリカ3本の他、浄玻璃鏡、立山開山佐伯有頼像などを展示し、立山信仰の世界をたっぷりと紹介しました。併せて今回は、生徒たちによる絵解き口演や、くたペイラストコンクールも行われました。もちろん、出前展示ではおなじみの「三択立山クイズ」も。正解者全員にオリジナルグッズを差し上げていたのですが、想定外に大好評のため途中で景品が品切れになってしまいました。今後も校種やスペースにあわせて出前します。学校からのご連絡をお待ちしています。(来場者220人)

(吉野俊哉)



まんだらナイトウォーク・もみじを愛でる会を終えて

9月14日(土)にまんだら遊苑にて「まんだらナイトウォーク」を、また11月3日(日・祝)、4日(月・振休)に教算坊にて「もみじを愛でる会」を開催しました。

ナイトウォーク2日目の15日(日)は、芦峠寺で記録的豪雨があり、残念ながら中止になりました。また、もみじを愛でる会では、もみじがまだ青いままでしたが、両企画とも多数ご来苑・ご来館頂き本当に感謝しています。

今後楽しい企画を通じて、皆様に博物館施設の良いところをご案内できればと思います。(毛利成宏)



博学連携

中堅教諭資質向上研修を実施

当館は毎年、富山県教育委員会からの依頼で、中堅教諭等資質向上研修の受講生を受け入れています。この研修は高等学校教諭を対象に、学校運営で中核的役割を果たす資質を身に付けることを目的として、実施されるものです。

今年度は1名の研修参加希望があり、10月8日(火)～9日(水)の2日間にわたり受け入れました。研修内容は、学芸課長の解説による展示施設の見学にはじまり、当館の教育普及活動やIPM、ボランティアの活動内容や運営等について、各学芸員の講義を受けました。最終日は「立山曼荼羅」のコーナーの展示解説実習の後、館長室にて博学連携等について館長、学芸課職員と意見交換を行い、全日程を終了しました。

(奥澤真一郎)



国重要文化財 旧嶋家住宅

耐震補強・保存修理工事を実施中

立山博物館の施設の1つで、国の重要文化財である旧嶋家住宅を耐震補強するとともに、屋根全面の葺替えや建具類、腰杉皮張、土壁などの補修工事を令和6年9月から行っています。

嶋家は、かつて富山県から岐阜県の高山市に通じる飛騨街道沿いにある、細入村片掛の街道に面して建てられていた住宅です。18世紀に建てられたとみられ、勾配の緩い切妻造で板葺きの石置屋根が特徴的です。

昭和46年(1971)3月に国の重要文化財に指定、立山博物館の前身である「立山風土記の丘」へ移築されました。これまでも大規模な補修工事が数回行われていますが、現在も往時の姿を残しています。

●本工事は、文化庁の令和6年度国重要文化財等保存・活用事業費補助金により実施しています。工事のため、建物内部の見学はできません。

ニホンカモシカ「シュート」に初孫誕生!

かもしか園で飼育中のニホンカモシカ「シュート」(オス14歳)の子もで、現在長野市茶臼山動物園に貸出中の「エイト」(オス11歳)と、同園の「モモ」(メス5歳)との間に、可愛い赤ちゃんが誕生しました。「シュート」にとっても初孫になります。生まれたのはメスで、先日2匹から名前を取って「モエ」と名付けられました。これからの成長を楽しみにしています。

(毛利成宏)

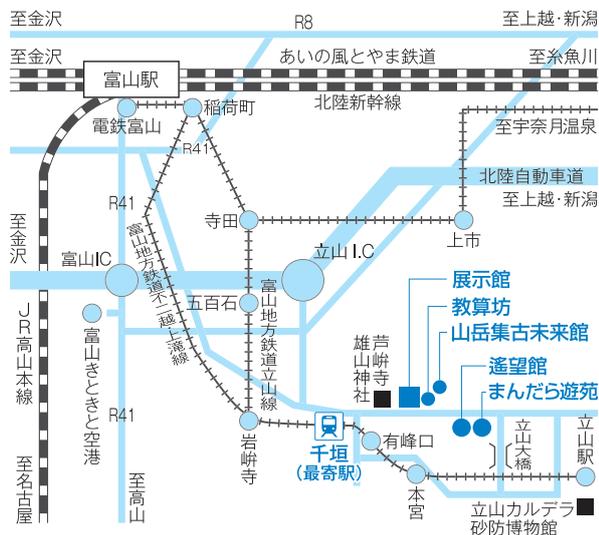


モモとモエ

編集後記

令和7年が始まりました。今年は、ナント!! まんだら遊苑が開苑30周年のアニバーサリーイヤーです。巳年にちなんで、当館も、さらに脱皮して、新たな一面をニョロとお見せする、へビーな年にしたいです(H)。

案内図



- 最寄り駅
富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩約30分(約2km)
※日曜を除き町営バス事前予約運行「雄山神社前」下車すぐ
- 自家用車で
JR富山駅から 約45分
立山駅(千寿ヶ原)から 約15分
富山インターチェンジから 約35分
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のHPはこちらから



人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峠寺93-1
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

でも情報発信中 立山博物館